

「アウル」でまちを活性化

本通振興会会長 久保義雄さん（弥生）



◆今年もアウルがオープンしましたね

まちの駅「アウル」は、設立から4年が経ちますが、年々町民の皆さんに浸透し、町内の各団体が積極的に活用してくれるようになり、イベントにも活気が出てきました。

5月15日のオープニングイベントは、冷たい雨が降る中、足を運んでくれたたくさんの方でテントの中は賑わっていました。

今年は、6月19日に開催される「夏至祭」と医療大学の「九十九祭」の第二会場として活用することが決まっております、新しい試みにどんどん挑戦して行きます。

◆イベントを通して商店街が変わりましたか

アウルが出来たきっかけは、空き店舗が増える商店街を活気づけるために、人が集まるようなイベント広場が欲しいという商店街の願いでした。

当初は、イベントを開催してもシャッターを閉めている店舗がほとんどでしたが、年々アウルに集うお客さんが増えるにつれ、来場したお客さんを自分の店舗に呼び込もうと、イベントを多く開催する日曜日に併せて開店する店舗が増え、商店街として一つにまとまってきました。

◆目指す商店街像は

本通商店街には、大学生が出入りする「ゆうゆう24」や、障がいを持つ方が町民と集う「つくし家」など、商店以外の団体があります。最近では、このような団体とも、一緒にイベントを行うことで、お互いに良い関係ができています。

これからは、アウルで行う他団体のイベントに対しても、会場設営などの支援をすることにより、自分たちの持てる力でまちづくりをする、「町のモデルケース」として発展して行こうと考えています。

町民の皆さん、まちの駅アウルのイベントに参加して一緒に楽しみましょう。

当別の風景

「こぶしの木」

青山中央にて撮影

写真提供 平出理三郎さん（園生）

